

# まちづくり協議会資料

1. 北見市火葬場整備計画に係る基礎資料作成  
業務委託報告書について

市民環境部

## 1. 北見市火葬場整備計画に係る基礎資料作成業務委託報告書について

### (1) 業務の目的と内容

#### ア 業務の目的

北見市内に立地する火葬場3施設（やすらぎ苑、常呂町斎場、留辺蘂町葬斎場）については、老朽化と使用件数の増加に伴い、施設全般の破損が進んでおり、死亡数の増加により本市の火葬処理能力を超えることが予想されることから、長期的な視野に立って、市民合意のもと今後の施設整備のあり方を検討することが求められる状況にある。

本業務では、火葬場の現況調査、利用予測、施設配置について複数案を検討し、メリット・デメリットを客観的に整理・分析した業務報告書を取りまとめることで、適切な火葬場整備に向けた基礎資料を作成することを目的とする。

#### イ 業務の内容

##### (ア) 施設現況調査

市内の火葬場3施設（やすらぎ苑、常呂町斎場、留辺蘂町葬斎場）について、「建物・設備状況」と「利用状況」について整理する。

##### (イ) 利用予測

地区別の将来人口から、将来の地区別利用件数を推計する。

##### (ウ) 火葬場再配置の検討

火葬場3施設を「やすらぎ苑」の1箇所へと集約配置する『集約ケース』と、現状の3施設の配置を維持する『維持ケース』の2ケースについて、「コスト」「市民利便」「実施課題」の面から比較検討を行う。

### (2) 施設現況調査

#### ア 『やすらぎ苑』の建物・設備の状況

##### (ア) 施設の概要

施設名称	やすらぎ苑
開設年月日	平成元年11月1日
所在地	北見市上仁頃130番地1
敷地面積	37,925.55㎡
駐車場	大型バス 2台 普通車 38台
総床面積	2,007.15㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建
火葬炉数	6基
胞衣炉数	1基
従業員数	4人

(イ) 現地調査カルテの総括（火葬棟）

機能上で問題になるほどの劣化は見られない。

しかし、トップライト付近で天井クロス剥がれが見られるように天井防水の問題や滑りやすい床、空調など改善すべき点は散見される。

イ 『常呂町斎場』の建物・設備の状況

(ア) 施設の概要

施設名称	常呂町斎場
開設年月日	昭和 54 年 4 月 1 日
所在地	北見市常呂町字常呂 583 番地
敷地面積	1,442.36 m <sup>2</sup>
駐車場	隣接霊園の駐車場（普通車 約 20 台）を共用
総床面積	275.00 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄筋コンクリート造平屋建
火葬炉数	2 基
胞衣炉数	1 基
従業員数	1 人（非常駐）

(イ) 現地調査カルテの総括（火葬棟）

屋根の漏水については平成 23 年度の改修工事によって改善したものの、外壁ひび割れや軒先のコンクリート剥落など深刻な劣化が随所に見られる。

ウ 『留辺薬町葬斎場』の建物・設備の状況

(ア) 施設の概要

施設名称	留辺薬町葬斎場
開設年月日	昭和 60 年 12 月 20 日
所在地	北見市留辺薬町旭公園 74 番地 5
敷地面積	2,106.56 m <sup>2</sup>
駐車場	普通車 24 台
総床面積	298.85 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄筋コンクリート造平屋建
火葬炉数	2 基
胞衣炉数	1 基
従業員数	2 人（非常駐）

(イ) 現地調査カルテの総括（火葬棟）

築 29 年の建物であるが、良好な状態で保たれている。

障がい者対応トイレの整備が課題であるが、館内には整備余地が無いので、別付けすることが考えられる。

## エ 施設の利用状況

### (ア) 年間稼働日数・火葬件数・稼働日平均火葬件数

施設名称	年 度	稼働日数	火葬件数			稼働日あたり火葬件数 (死体)
			死体	死胎	人体の一部・ 胞衣等	
やすらぎ苑	H25 年度	305	1,322	38	1,561	4.33
	H21～H25 計	1,514	5,865	247	6,916	3.87
常呂町斎場	H25 年度	57	58	0	1	1.02
	H21～H25 計	264	267	1	7	1.01
留辺薬町葬斎場	H25 年度	94	100	2	0	1.06
	H21～H25 計	444	489	3	3	1.10

#### 『やすらぎ苑』

死体の火葬件数の推移を見ると、概ね増加傾向にある。

稼働日一日あたりの火葬件数（死体）は、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間でみると、平均で約 3.87 件であるが、死亡者数の日変動や友引前後への申込み集中などにより、日あたりの件数は変動している。

また、火葬件数（死体）あたりの利用者数（参列者数）を見ると、減少傾向にあるが、平成 25 年度の利用者数は約 3 万 1 千人であり、総数はやや増加傾向にある。

#### 『常呂町斎場』

死体の火葬件数の推移を見ると、年度別の変動が大きいものの、傾向としてはやや増加傾向にある。

稼働日一日あたりの火葬件数（死体）は、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間でみると、平均で 1.01 件であり、複数件の利用がある日数は年間 1 日程度、稼働日全体の 2.3%と頻度は稀である。

また、休憩室など参列者の収容可能人数は 40 名程度あるが、火葬中に一度葬儀場に戻る方もいるため休憩室の容量に不足は無い。

#### 『留辺薬町葬斎場』

死体の火葬件数の推移を見ると、年度別の変動が大きいものの、傾向としてはやや増加傾向にある。

稼働日一日あたりの火葬件数（死体）は、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間でみると、平均で 1.10 件であり、複数件の利用がある日数は年間 10 日程度、稼働日全体の 11.9%である。

また、近年は火葬に立ち会う遺族の人数が増加したことで、休憩室の容量に不足が生じている。

(3) 利用予測

ア 火葬利用件数の推計

(ア) 地区別年次別の年間火葬利用件数 (推計)

北見市合計では 2035 年 (平成 47 年) からの 5 年間に最大時期を迎え、年平均利用件数は 1,946 件と推計された。一方、常呂自治区及び留辺蘂自治区では、2015 年 (平成 27 年) からの 5 年間で最大となり、以降は減少傾向となると予測された。

	2005 (H17) 年～	2010 (H22) 年～	2015 (H27) 年～	2020 (H32) 年～	2025 (H37) 年～	2030 (H42) 年～	2035 (H47) 年～
北見+端野自治区 (やすらぎ苑)	1,010	1,228	1,409	1,550	1,662	1,746	<b>1,797</b>
常呂自治区 (常呂町斎場)	53	64	<b>65</b>	64	61	59	55
留辺蘂自治区 (留辺蘂町葬斎場)	106	123	<b>125</b>	122	114	104	94
北見市計	1,169	1,414	1,600	1,736	1,838	1,909	<b>1,946</b>

	2040 (H52) 年～	2045 (H57) 年～	2050 (H62) 年～	2055 (H67) 年～	2060 (H72) 年～	2065 (H77) 年～	2070 (H82) 年～
北見+端野自治区 (やすらぎ苑)	1,767	1,699	1,639	1,577	1,501	1,384	1,255
常呂自治区 (常呂町斎場)	50	45	41	36	31	27	24
留辺蘂自治区 (留辺蘂町葬斎場)	79	65	53	43	36	28	22
北見市計	1,896	1,809	1,733	1,656	1,568	1,440	1,300

## イ 将来必要とされる施設規模の推計

### (ア) 現況と将来必要となる炉数の比較

	やすらぎ苑	常呂町斎場	留辺蘂町葬斎場
現況の施設炉数	6基	2基	2基
将来必要となる炉数 (最大年)	9基 (2035～2040年)	2基 (2015～2020年)	2基 (2015～2020年)
比較	火葬炉の増設が必要	現況のままで足りる	現況のままで足りる

常呂町斎場と留辺蘂町葬斎場については現状の2基の火葬炉で将来も対応可能である。  
やすらぎ苑については死亡者数の増加に伴い、将来は最大9基の火葬炉が必要となり火葬炉の増設等が必要である。

また、年次別の必要炉数を算出した結果、やすらぎ苑の現状は予備炉無しで対応している状況であり、早急な対応が求められる。

### (イ) 『やすらぎ苑』の年次別必要炉数の算出

	2010 (H22) ～2015	2015 (H27) ～2020	2020 (H32) ～2025	2025 (H37) ～2030	2030 (H42) ～2035	2035 (H47) ～2040	2040 (H52) ～2045	2045 (H57) ～2050
年間地区死亡者数	1,218	1,398	1,538	1,649	1,732	1,783	1,753	1,685
理論的必要炉数	5.46	6.27	6.89	7.39	7.76	7.99	7.86	7.55
理論的必要炉数 (小数点繰り上げ)	6.00	7.00	7.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
予備炉を含む 必要炉数	7.00	8.00	8.00	9.00	9.00	9.00	9.00	9.00

(4) 火葬場再配置の検討

ア 火葬場再配置のケース設定

死亡者数の増加に伴い、現況のやすらぎ苑の施設規模では将来火葬対応が困難となること。また、常呂町斎場は建物の老朽化が進んでおり、施設の更新・除却について判断が必要な時期を迎えていること。さらには、約20年後に火葬件数のピークを迎えた後、火葬件数は減少していくことも予想されており、長期的視点に立って火葬場再配置を検討する必要があること。

以上の分析を踏まえ、将来の火葬場配置について、現在のやすらぎ苑・常呂町斎場・留辺蘂町葬斎場の3施設のままとし今後とも現施設を改築改修することとする「3施設分散」ケースと、現在の3施設からやすらぎ苑へ施設を統合するとともに、必要に応じて増築や改築を行う「1施設への統合」ケースを想定し、「コスト」「市民利便」「実施課題」の面から比較検討を行うこととする。

表-1 北見市内火葬場配置の検討ケース設定

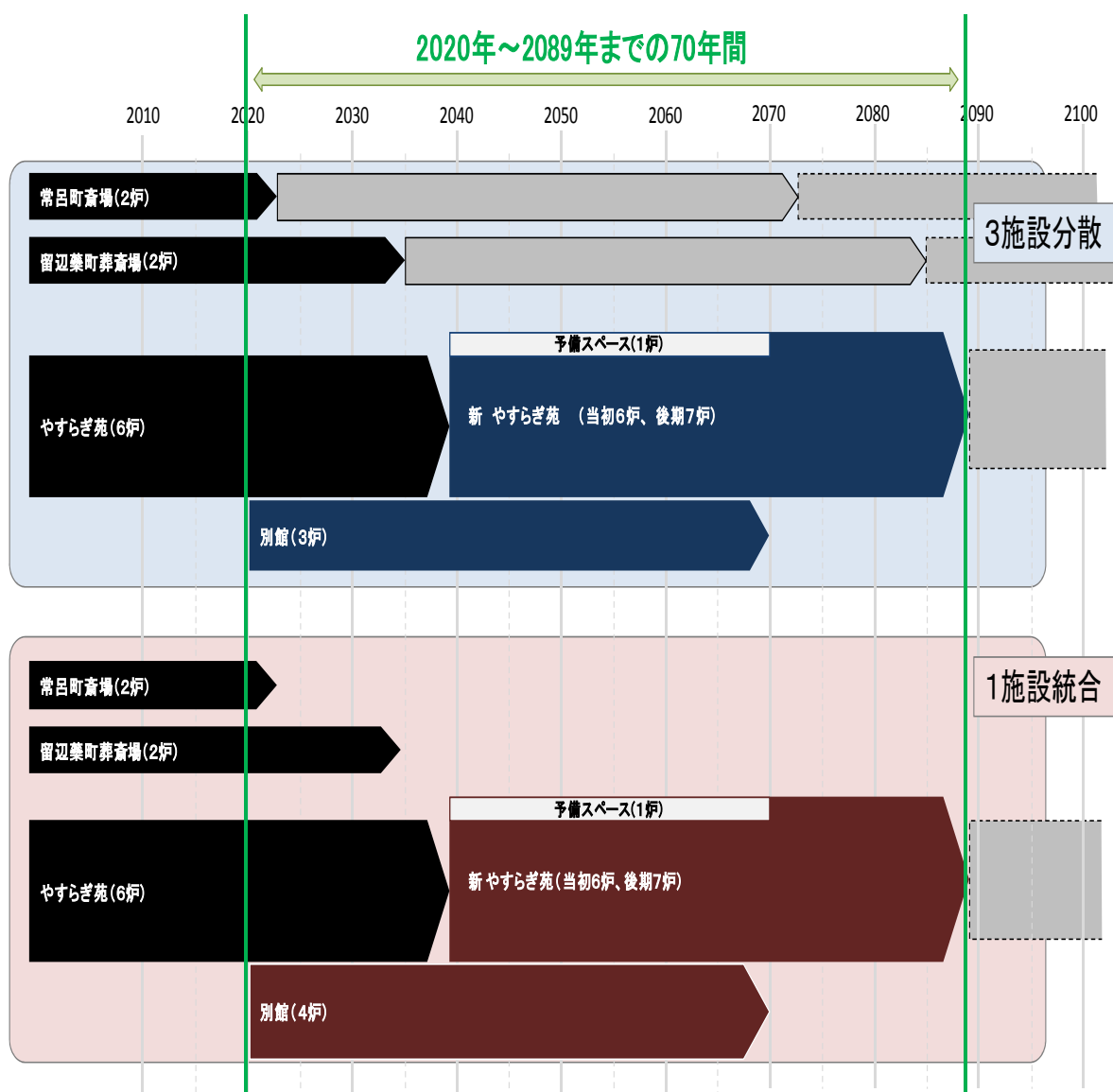
	3施設分散	1施設へ統合
最終的な火葬場配置イメージ		
死亡数・使用件数(実績)	年平均 <sup>※1</sup> 死亡数 (市合計) 1,246人 年平均 <sup>※1</sup> 使用件数 (市合計) 1,257件 件数内訳 <sup>※2</sup> (北見) 1,111件、(常呂) 50件、(留辺蘂) 95件	
最大 <sup>※3</sup> 年間死亡数(推計)	【北見+端野地区】1,783人(2035年～) 【留辺蘂地区】124人(2015年～)	【常呂地区】65人(2015年～) 【北見市計】1,931人(2035年～)
最大 <sup>※3</sup> 必要炉数(推計)	【北見】 9基 【常呂】 2基 【留辺蘂】 2基 【3施設合計】 13基	【北見=市合計】 10基

※1：平成18年度から25年度までの8ヶ年平均値。

※2：火葬場表記は、(北見)やすらぎ苑、(常呂)常呂町斎場、(留辺蘂)留辺蘂町葬斎場を指す。

※3：平成22年10月からの5年刻みでの推計のうち、死亡数が最大となる期間を採用。

イ 年次別施設配置スケジュールのイメージ

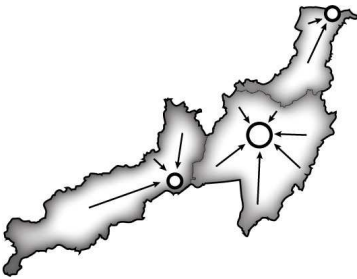
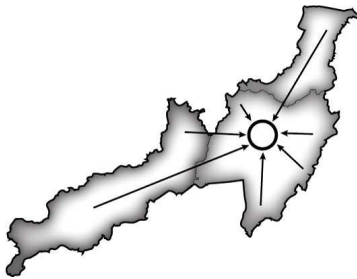




## ウ 配置ケースの比較

比較検討結果の要点をまとめると下表のとおりであり、コスト面では1施設統合ケースが優位であるが、利用者利便では3施設分散が優位となる。

表-2 配置ケースの比較

	3施設分散（現施設の改築・改修）	1施設へ統合（やすらぎ苑へ統合）
配置イメージ		
初期費用 A) (70年間累積)	建設事業費：2,127 百万円 機器導入費： 680 百万円 合 計：2,807 百万円	建設事業費：1,594 百万円 機器導入費： 416 百万円 合 計：2,009 百万円
維持管理費 B) (70年間累積)	3,955 百万円	3,613 百万円
累積コスト (A+B)	6,762 百万円	5,622 百万円
年あたりコスト ((A+B) ÷ 70)	97 百万円	80 百万円
火葬場利用者の 総移動時間	36,930 時間（年あたり）	41,348 時間（年あたり）
通行止めリスク	—	常呂から年1件程度通行止めに合う
定性的なデメリット・実施課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい財政見通しのなか、火葬場の施設量を維持する根拠の説明が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火葬場利用利便が低下する常呂、留辺蘂自治区の住民の理解と合意が必要。</li> <li>・ 葬儀関係者等の理解と合意が必要。</li> <li>・ 常呂の火葬中にいったん葬儀場に戻るといった利用形態はとれなくなる。</li> <li>・ 常呂、留辺蘂からは移動時間の制約から朝や夕方火葬時間設定は難しい。</li> <li>・ 移動時間の増大により葬儀時間が長くなるため、遺族、関係者の心労が増す。</li> </ul>

## エ 今後の課題

### (ア) やすらぎ苑の短期的な容量拡大策の実施

火葬場整備の事業実施までには、施設配置の合意形成や計画・設計など短くとも数年の期間を要すると考えられる。

しかし、やすらぎ苑については既に受け入れ容量の限界に近い状況にあり、火葬数が増加傾向にあるなか、短期的な容量拡大策をとる必要がある。

### 【短期的な容量拡大策（案）】

#### 留辺薬町葬斎場との連携

- ・留辺薬町葬斎場では3件目以降は繰り上げ法要の時間制約から、やすらぎ苑に対応を依頼している現状がある。しかし、建物は良好な状態であり、北見自治区の西部からはアクセス利便が良いことから、やすらぎ苑が容量超過する際は、留辺薬町葬斎場で対応するなど両施設の連携を図ることが考えられる。

#### 部分的な施設改装などによる同時火葬数の増加

- ・火葬件数を制約している要因の一つは収骨室が2室しか無いことである。2室ある告別室のひとつを収骨室に改装すれば同時3体の火葬が可能になる。ただし、告別の時間短縮や炉前ホールの告別利用などの変更の必要があるほか、控室の容量や人員体制の確保などの課題がある。

#### 時間指定予約制から到着順火葬へ予約制度変更

- ・現在北見市では火葬時間を指定して予約する制度をとっている。そのため、到着時間が遅れた場合の余裕時間をとる必要があり、火葬件数を制約している要因の一つとなっている。札幌市など他自治体では到着順に火葬している例があり、効率的な運用のため予約制度を変更することが考えられる。

### (イ) 施設配置の合意形成

常呂町斎場については外壁のひび割れや軒先のコンクリート剥落など深刻な建物劣化が随所に見られており、今後の斎場存続について十分な検討・協議をするべき時期を迎えている。

そのためには施設配置の方針を決めておく必要があり、本報告書での客観的な比較検討結果を活用し、市民・関係者の議論のもと合意形成を図る必要がある。

### (ウ) 財政負担軽減策の検討

北見市の厳しい財政見通しのなか、火葬場という市民サービスを持続していくためには、市財政への負担軽減策について検討する必要がある。制度環境や社会環境が変化するなか、補助制度の適用可能性やコスト削減策などについて、引き続き検討する必要がある。

(5) 今後の検討スケジュールについて

今後の北見市火葬場の施設整備については、平成 27 年度において、まちづくり協議会等に基礎資料を公表し、平成 28 年度には識見を有する者、市民団体関係者及び公募委員等で構成する（仮称）北見市火葬場整備基本方針検討委員会を設置して、現地視察、市民アンケート及び住民懇談会等を行い、市民、関係者の議論と合意形成を図りながら基本方針を策定したいと考えています。

		26 年度 2014	27 年度 2015	28 年度 2016	29 年度 2017	30 年度 2018	31 年度 2019	32 年度 2020
北見市火葬場施設整備	基礎資料	作成						
	公表		公表 協議会等 まちづくり					
	検討委員会			現地視察 アンケート 住民懇談会 提言書				
	基本方針(案) 基本方針(案) 基本方針			パ コ 議 会 報 告 決 定				
やすらぎ苑 (火葬炉等増設)				基本 設計	実施 設計	建設	供用 開始	
やすらぎ苑	機能上問題発生箇所の修繕、火葬設備の点検及び保守							
常呂町斎場	機能上問題発生箇所の修繕、火葬設備の点検及び保守							
留辺薬町葬斎場	機能上問題発生箇所の修繕、火葬設備の点検及び保守							